



市議会だより

かかみがはら

発行

各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69
電話058-383-2001

編集

市議会だより編集委員会



ディベートに取り組む中学生（10月12日～15日・各務野立志塾）

9月定例会

平成25年度一般会計決算を認定	2
委員会審査	4
審議結果	6
委員会調査報告	7

市政を問う 一般質問

災害時の安心への備え	8
認知症の早期発見	9
航空宇宙科学博物館のリニューアル	10
浸水対策の取り組み	11
市民の声、議会素描	12

平成25年度一般会計決算

総額467億7514万円を認定

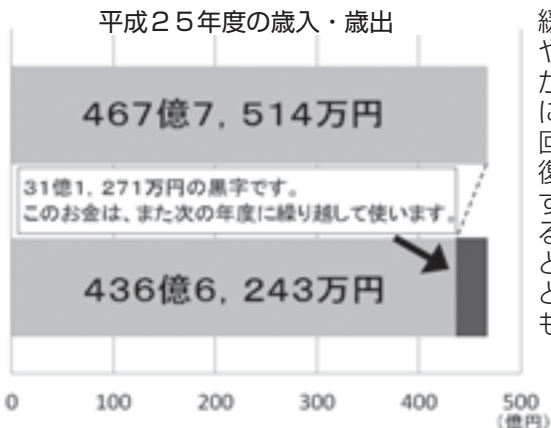
オリジナルドラマ制作、市制50周年記念式典など

平成26年第3回定例会（9月定例会）を9月2日から9月30日までの29日間の会期で開催しました。

市長から提出された議案は、平成25年度一般会計決算をはじめとする33案件で、委員会、本会議を経て、いずれも原案のとおり承認・認定・可決・同意しました。

平成25年度 一般会計決算

平成25年度は、アベノミクス効果により景気は緩やかに回復するとともに、



に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定するなど国全体が徐々に明るさを取り戻した年でした。

本市においては、市制施行50周年を迎えると同時に、新たな50年へのスタートの年として、市民が幸せを実感できる街の実現に向けて、さまざまな事業を一つ一つ着実に、そして新たな気持ちで取り組んでまいりました。

特に、「夢ある都市推進事業」をはじめ、「市制施行50周年記念式典事業」「ふるさと納税啓発事業」

などを積極的に展開し、本市の魅力を再発見、再認識していただくとともに、これらを情報発信してまいりました。

また、市民の安全・安心を確保するため、公共施設の100%耐震化の推進に努めてまいりました。このように平成25年度は、既存事業を着実に実施し成果を挙げるとともに、新たな政策課題に対して積極果敢に取り組んだ1年でした。

また、税収などに占める借金の返済負担の割合を示す「実質公債費比率」は0.7%となり、引き続き健全な財政を堅持しました。

平成25年度の 主な事業

●市制施行50周年記念式典事業

市制施行50周年という大きな節目の年を、市民と祝うメインイベントとして、平成25年11月1日に約1300人の参加者のもと、市民会館で記念式典を行いました。



市制施行50周年記念式典

●子育て応援団「ばあばの家・じいじの家」事業

地域で子育て家庭への声掛けや見守りを行い、子育て家庭の育児を応援し、支え合う仕組みをつ

●こども医療費助成制度

平成20年4月より市単独で小学生の入院・外来、中学生の入院までを対象としてきた医療機関受診時の保険診療自己負担額の助成を、中学生の外来分まで拡充しました。

●小中学校冷暖房設備整備事業

児童生徒に快適な学習環境を提供するため、平成28年度末までにすべての小中学校の全教室に冷暖房設備を整備します。平成25年度は、小学校15校分と中学校6校分の設計を行いました。



ばあばの家・じいじの家

平成26年度 一般会計補正予算

当面の行政需要に対応するため、歳入歳出予算にそれぞれ4億655万3千円を追加するもので、補正後の予算総額は43億1443万2千円となりました。

歳入の主なもの

○国庫支出金

2555万9千円

○繰越金

3億6854万1千円

歳出の主なもの

○市道那965号線自転車駐車場整備事業

JR那加駅南側に駐輪場を整備するものです。

3417万6千円



駐輪場整備予定地（JR那加駅南側）

○予防接種事業
10月1日から水痘（水ぼうそう）ワクチンの定期予防接種を実施するものです。
5666万7千円

その他の議案

本庁舎耐震化等特別委員会の設置

現在、市役所本庁舎の耐震化に関して、基本構想の策定に向け検討されており、市議会として整備方法、整備計画、財政計画などを調査するため、定数を8人とする本庁舎耐震化等特別委員会を設置するものです。

構成委員

（○委員長、○副委員長）

○古田澄信 ○津田忠孝、

黒田昌弘、永治明子、

仙石浅善、池戸一成、

杉山元則、岡部秀夫

総合計画基本計画

総合計画基本構想に掲げる将来都市像を実現するために取り組むべき施策を明らかにし、諸施策の方針や達成指標など具

体的な内容を総合的、体系的に定めた総合計画基本計画を定めるものです。

欧州都市行政視察

全国市議会議長会主催の海外都市行政調査団の一員として、10月7日から10日間、欧州の各都市における議会制度、特色ある施策、歴史的建造物の保護、食の安全対策などに関する調査をするため、大竹大輔議員と津田忠孝議員の2人を派遣するものです。

三丸文也議員に対する懲罰の件

6月定例会の一般質問における三丸議員の発言中、議会人としてモラルに欠け、議会の品位をおとしめる発言があったとする懲罰動議があったため、委員7人による懲罰特別委員会で審査を行ってきました。

その結果、三丸議員の発言は司法機関や市の監査機関に対する無礼な発言に当たるとして、戒告とする懲罰を賛成多数で可決しました。

●かみがはらフィルムコミッション事業

テレビ番組やCM、雑誌などの撮影の誘致を行うことで、本市の魅力を生かすことと、本市の魅力を市内外にPRしました。

●男依歌舞伎創作事業

地域の歴史を再認識するとともに、都市ブランド力の向上と地域活性化を目指し、壬申の乱で最大の功績を上げた美濃国各務郡の豪族「村国男依」を題材とする歌舞伎を創作上演しました。



男依歌舞伎（村国座）

●資機材搬送車購入事業

東部方面消防署の資機材搬送車の老朽化に伴い、被災地からの出動要請や水難救助に必要なボート



資機材搬送車

●高齢者肺炎球菌ワクチン接種助成事業

安心して老後を支えるため、70歳以上の高齢者の肺炎球菌ワクチン接種に対して、費用の半額を助成しました。

●住宅リフォーム補助事業

居住環境の整備と市内住宅関連事業者の活性化を図るため、市内施工業者を利用して行った住宅リフォーム約500件について、工事費の一部を補助しました。

委員会審査



総務常任委員会

平成25年度一般会計決算の認定(所管分)

▼問 臨時財政対策債が前年に比べて大幅に伸びているが、その理由は。

▽答 平成24年度は、将来の財政負担を考慮し、発行額を抑制した。

平成25年度は、公共施設の老朽化対策など、将来必要となる予算を確保するため発行額を限度額まで増額したためである。

▼問 市の魅力をアピールする「どこでもタペストリー事業」の成果は。

▽答 河川環境楽園と航空宇宙科学博物館にタペストリーを設置し、観光スポットや特産品をPRした。

特に河川環境楽園は、

今期定例会に提出された各案件を詳しく審査するため、9月19日から4日間で委員会を開催し、審査を行いました。
各委員会での主な質疑内容は次のとおりです。

東海3県の中でも集客率が非常に高い施設であるため、一定の効果があつたとみている。



タペストリー(河川環境楽園の当時の様子)

▼問 市長と市民が語り合う「まちづくりミーティング事業」の成果は。

▽答 11回開催し、108人の参加があった。

参加者からいろいろな意見を頂き、今年度の予算や今後の計画に反映できた。

▼問 参加者の声は。

▽答 次回もぜひ参加したい、市政に対する理解が深まったなどの声を多く頂いた。

▼問 平成25年度の市民相談で、増えた相談内容と件数は。

▽答 消費生活相談が特に増え291件あった。

消費生活相談は、平成21年度と比べ124件、70%ほど増加していることから、相談時間を朝10時からとしたほか、相談員のレベルアップにも力を入れている。

▼問 買い物困難者講習会への参加者数と年齢構成は。

▽答 市内10力所で開催し、279人の参加があった。

36歳から85歳まで幅広く参加いただき、そのう

ち60代・70代は228人で全体の8割を占めた。

民生消防
常任委員会

平成25年度一般会計決算の認定(所管分)

▼問 乳がん、子宮がん検診の受診状況と結果は。

▽答 乳がん検診受診者は2714人で、そのうち要精密検査が266人、がん発見者が17人、子宮

がん検診受診者は2625人で、そのうち要精密検査が85人、がん発見者が4人であった。

▼問 生活保護世帯の世帯状況の内訳は。

▽答 529世帯のうち、高齢者世帯が300世帯、母子世帯が32世帯、障がい者世帯が56世帯、傷病世帯が66世帯、その他が75世帯である。

▼問 生活保護世帯のうち、就労可能な世帯の就労実績は。

▽答 平成25年度に就労支援委員がハローワークなどに行方して就労支援をした人数は61人で、そ

のうち41人が職に就いた。

また、そのうち7人が生活保護を脱却した。

▼問 学童保育の指導員の配置状況は。

▽答 指導員は、児童数35人までは最低2人、その後10人増えるごとに1人ずつ増員している。

部屋が分かれても、児童数に応じて適切な配置をしている。

平成25年度介護保険事業特別会計決算の認定

▼問 要介護認定の申請から認定結果通知までの流れは。

▽答 高齢福祉課窓口で要介護認定の申請をする、後日、市が派遣する認定調査員がご本人のところを訪問して、現在の状況を調査する。

それに併わせ主治医から意見書を出してもらい、現在の医療的な状況について調査をする。

その後、調査書類を基にコンピュータで一次判定を行った後、介護認定審査会で審査され要介護認定結果を通知する。

経済教育 常任委員会

平成25年度一般会計決算 の認定(所管分)

▼問 国際交流サロンに国際交流相談員と国際交流員を配置しているが、相談件数と主な内容は。

▽答 平成25年度は、1530件の相談があった。

主な相談内容は、市民課では外国人登録や婚姻に関する事、税務課では納税に関する事、子育て支援課では保育所の入所や母子家庭の支援に関する事である。

▼問 商工振興対策費が前年度に比べ、大きく増額した主な理由は。

▽答 平成25年度から新たに住宅リフォーム補助金を新設したためである。

▼問 農地パトロールの実施状況は。

▽答 8月から9月にかけて農業委員が各地区に分かれ農地を目視で確認し、その報告を基に再度事務局が現地調査を行うことで、農地の状況を確認している。

認している。

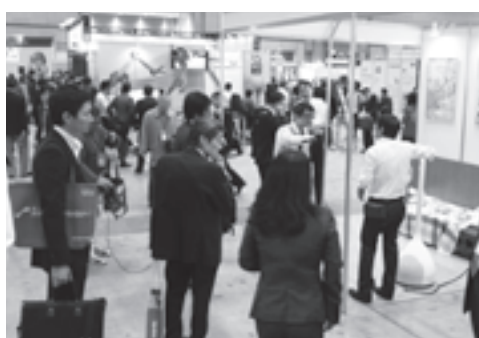
荒廃農地の所有者には、改善指導の文書を送付している。

▼問 荒廃農地の面積の推移は。

▽答 平成23年度は、7・6ヘクタール、24年度は7・2ヘクタール、25年度は6・2ヘクタールを確認している。

▼問 国際ロボット展、東京国際航空宇宙産業展、次世代ものづくり基盤技術産業展でのそれぞれのビジネスマッチングの件数と商談件数は。

▽答 国際ロボット展はマッチング100件と商談6件、東京国際航空宇宙



国際ロボット展(東京ビッグサイト)

産業展はマッチング690件と商談33件、次世代ものづくり基盤技術産業展はマッチング600件と商談18件である。

▼問 小中学校校舎の耐震化の進捗状況は。

▽答 小中学校の耐震化率は97・28%、そのうち中学校は100%である。

平成26年度一般会計補正 予算(所管分)

▼問 ふるさと納税のこれまでの実績は。

▽答 平成20年度は10件で合計145万円、21年度は4件で16万4千円、22年度は5件で72万8千円、23年度は6件で88万5千円、24年度は4件で79万円であったが、25年度は8188件で1億2497万7千円と大幅に増加した。

建設水道 常任委員会

平成25年度一般会計決算の 認定(所管分)

▼問 道路整備に関する自治会要望への対応は。

▽答 自治会から894

件の要望があり、654件、約73%を実施した。

▼問 環境に関する苦情件数の主な内容は。

▽答 大気、水質、騒音、振動、悪臭の5項目の公害に関する苦情で、主に工場からの騒音が22件、川の水質が17件、悪臭の苦情が8件である。

▼問 過去に実態調査した屋外広告物の追跡調査とは、どのような所を対象としているのか。

▽答 民有地側の看板を対象としており、野立て看板や自家用として建物に貼っている壁面広告や袖看板など、全市域で把握し、継続的に看板の増減や除去について調査をしている。

▼問 クリーンセンターの長寿命化を検討するため、設備の更新方法について調査・検討を行ったが、その結果は。

▽答 周辺環境への影響や維持管理の容易さ、インシヤルコストやランニングコストを比較検討した結果、水処理を下水道

に接続する方式に変更し、水処理工程の一部と汚泥の乾燥・焼却設備を廃止する方式が最も優位という結論を得た。



クリーンセンター(蘇原宮塚町)

平成25年度下水道事業特別会計決算の認定

▼問 下水道使用料の滞納者への対応と成果は。

▽答 平成25年度は、下半期から滞納整理を強化した。

例年の催告に加え、高額滞納者への来庁依頼や差し押さえ予告、差し押さえといった段階的な滞納整理を行い、例年500万円ほどの滞納分収入増額を約830万円まで引き上げることができた。

審 議 結 果 （9月定例会）

○議員派遣の件（欧州都市行政視察）	原案可決・賛成多数
○議員派遣の件（市議会だより編集に関する調査）	原案可決・全会一致
○議員三丸文也君に対する懲罰の件	戒告の懲罰を科す・賛成多数
○固定資産評価審査委員会委員の選任（長尾則子氏）	原案同意・全会一致
○人権擁護委員候補者の推薦（浅野清美氏）	原案同意・全会一致
○人権擁護委員候補者の推薦（勝野武雄氏）	原案同意・全会一致
○人権擁護委員候補者の推薦（深尾友一氏）	原案同意・全会一致
○人権擁護委員候補者の推薦（宮崎邦夫氏）	原案同意・全会一致
○人権擁護委員候補者の推薦（安東節子氏）	原案同意・全会一致
○専決処分の承認（平成26年度一般会計補正予算（第4号））	原案承認・全会一致
○平成25年度一般会計決算の認定	原案認定・賛成多数
○平成25年度国民健康保険事業特別会計決算の認定	原案認定・全会一致
○平成25年度介護保険事業特別会計決算の認定	原案認定・全会一致
○平成25年度後期高齢者医療事業特別会計決算の認定	原案認定・賛成多数
○平成25年度下水道事業特別会計決算の認定	原案認定・全会一致
○平成25年度水道事業会計決算の認定	原案認定・全会一致
○平成26年度一般会計補正予算（第5号）	原案可決・賛成多数
○平成26年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決・全会一致
○平成26年度介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決・全会一致
○平成26年度下水道事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決・全会一致
○市職員等の旅費に関する条例の一部を改正する条例	原案可決・賛成多数
○福祉医療費助成に関する条例の一部を改正する条例	原案可決・全会一致
○特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例	原案可決・賛成多数
○家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例	原案可決・賛成多数
○放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例	原案可決・全会一致
○学童保育室条例の一部を改正する条例	原案可決・全会一致
○保育の実施に関する条例を廃止する条例	原案可決・全会一致
○図書館条例の一部を改正する条例	原案可決・全会一致
○市営住宅条例の一部を改正する条例	原案可決・全会一致
○下水道条例の一部を改正する条例	原案可決・全会一致
○総合計画基本計画	原案可決・賛成多数
○財産の取得（消防ポンプ自動車）	原案可決・全会一致
○和解及び損害賠償の額を定めること	原案可決・全会一致
○平成25年度水道事業会計未処分利益剰余金の処分	原案可決・全会一致
○市道路線の認定（市道鵜1379号線ほか4路線）	原案可決・全会一致
○市道路線の廃止（市道那323号線）	原案可決・全会一致
○岐阜基地へオスプレイを飛来させないことを求める請願	不採択・賛成少数
○「手話言語法」制定を求める意見書	原案可決・全会一致
○本庁舎耐震化等特別委員会の設置決議	原案可決・全会一致
○総合計画特別委員会の廃止決議	原案可決・全会一致
○杉山元則議員に適切な対応を求める決議	原案可決・賛成多数

委員会調査報告 (市外での視察)

総務常任委員会

〈期間〉5月27日～29日

○広島県東広島市

本庁舎の建て替えを選択した経緯や現状の様子、市民の反響などについて調査した。

旧庁舎は施設が分散していたため、市民に負担を掛けていたが、本庁機能を一カ所に集約したことで、より効果的な行政運営を可能としている。

新庁舎には、単なる事務機能だけでなく、市のシンボル施設として、また、市政への参加を促進する市民交流の場、中心市街地の活性化を促進する拠点施設、市民を守る防災拠点など、さまざまな役割を想定している。

また、免震構造のほか、LED照明や雨水利用など省エネへの配慮、ユニバーサルデザインを導入している。

跡地での建て替えのため、特に市民からの反対意見はなかったとのことである。

本市でも本庁舎の耐震化については、これらのことも踏まえ、検討していく必要があると感じた。

そのほか、鹿児島市のコミュニティビジョン、熊本県宇土市の行政評価などを視察した。

建設水道常任委員会

〈期間〉5月26日～28日

○大分県豊後高田市

昭和30年代の町並みを再現した「昭和の町」を視察した。

人口の減少とともに衰退した商店街のにぎわいを取り戻すために始めたまちづくりで、昭和30年代以前の建物が多く残っていることを活用し、店舗に「昭和の店」づくりを呼び掛けている。

改修の際は、申請により補助金を出しており、現在では50以上の店舗が改修を行い、当時の風情を再現している。

立地や歴史的背景は異



昭和の町（豊後高田市）

なるが、リピーターの確保など、にぎわいをつくり出す一つの手段として本市の鵜沼宿などの参考としたい。

そのほか、福岡県北九州市の自転車利用環境計画、熊本市の地下水保全の取り組みを視察した。

経済教育常任委員会

〈期間〉5月19日～21日

○長崎県佐世保市

小学校に入学したばかりの1年生が、教師の話聞かない、授業中に歩き回る、おしゃべりが絶えないといった、いわゆる「小1プロブレム」は、就学前の保育所・幼稚園から小学校への急激な環

境の変化に子どもが適応できず、戸惑いを起こしたことが一つの要因だと考えられている。

佐世保市では、保育所・幼稚園・小学校共通のマニュアルを作成し、連携を強化するとともに、保育・教育課程の編成や指導方法を工夫し、子どもたちの戸惑いの軽減を図っている。

佐世保市の指導方法など工夫した点を、本市の現在の取り組みの参考としたい。

そのほか、長崎市のさるく事業、佐賀県武雄市の図書館を視察した。

民生消防常任委員会

〈期間〉5月13日～15日

○栃木県小山市

昨年、日本経済新聞社産業地域研究所が行った「高齢化対応度調査」の総合得点ランキングで1位を獲得している。

高齢者が、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、医療、介護、生活支援、予防、社会参加の面から、一体的にサ

ービスが受けられる地域づくりを推進し、さまざまな対応をしていた。

また、消防バイクの運用についても視察した。

初期消火と災害救助作業のために、消防バイクと救急バイクを導入している。

普通車両の通行が困難な場所や渋滞時にも対応可能なバイクは有効であるため、今後も小山市の運用状況や成果に注目したい。

そのほか、東京都町田市の高齢者福祉施策、栃木県宇都宮市の地域医療・救急医療体制と高齢者福祉施策を視察した。



説明を受ける委員（小山市）

市政を問う 一般質問

9月16日、17日の2日間で一般質問を行いました。
質問をした議員は次のとおりです。(発言順)

梅田利昭、黒田昌弘、津田忠孝、五十川玲子、大竹大輔、
永治明子、川嶋一生、岩田紀正、仙石浅善、瀬川利生、
波多野こうめ、坂澤博光、杉山元則

災害時の安心への備え

地域の防災力を強化

▼問 今回から地域ごとに防災訓練を行ったが、どう評価しているのか。

▼答 今回から参加者全員がすべての訓練を体験し、災害に備える知識や技能を習得できるような内容を充実した。



地域防災訓練（鵜沼第一小学校）

また、地元の消防団に多数参加いただき、消防団と自治会の連携を図る機会として、地域の防災力を強化する訓練に見直しており、おおむねスムーズに訓練ができたという評価している。

▼問 大規模災害など一次避難所の収容可能人数を超える場合の対応は。

▼答 災害発生状況や避難対象人数などを考慮し、収容能力を超えると予想されるときは、二次避難所も開設し、災害情報スピーカーや携帯メールなどでお知らせする。

なお、二次避難所である小中学校にも食料や飲

料水、毛布などを備蓄している。

▼問 豪雨時など、災害情報スピーカーの音が聞こえづらい時の対応は。

▼答 避難勧告など緊急にお知らせする必要がある情報は、はじめにサイレンを鳴らし、最大音量で放送する。

放送内容が確認できなかったときのため、災害情報スピーカー・テレホンサービスや市の防災情報メール、携帯電話会社が提供する緊急速報メールを活用し、情報が広く届くように努めている。

▼問 自治会と連携を取りながら、継続的に地域で防災活動を行っている団体はあるのか。

▼答 市の防災ひとづくり講座を修了した防災推進員で構成された防災推

(災害情報スピーカー テレホンサービス ☎058-380-5055)

進ネットワークがある。

昨年は3つの自治会で地元の防災推進員が中心となり、防災に関する講習会も開催されている。

▼問 防災推進員がいない地域について、どのように考えるか。

▼答 今後も防災ひとづくり講座を引き続き実施し、地域で継続的に活躍してもらええる防災リーダーの育成に努め、地域で防災に関する取り組みが、活発に行われることを期待している。

土砂災害への 対応

▼問 土砂災害の避難勧告発令の判断基準は。

▼答 土砂災害警戒情報の発令や近隣での前兆現象の発見、気象情報などを含め総合的に判断し発令する。

▼問 土砂災害の避難勧告は早めに発令すべきだが、どのように考えているか。

▼答 土砂災害の発生は降雨条件だけでなく、局所的な地形や地質条件などのさまざまな要因が関係すると考えられている。

土砂災害は発生場所や発生時刻の詳細を予測することが難しい災害であるため、空振りを恐れず避難勧告などを発令することにより、できるだけ早く避難することが必要といえる。

地域で前兆現象をキャッチしたときは、市に情報提供していただくことが精度の高い避難勧告につながる。今後、皆さんからの情報提供の協力をお願いしたい。



市で行っている防災ひとづくり講座

認知症の早期発見

認知症チェックリストを作成

▼問 認知症チェックリストを作成する考えは。

▽答 認知症は、早期診断・早期対応により症状の軽減や進行を遅らせることができる。

認知症チェックリストは、本人や家族が簡易な方法で早期に認知機能の低下に気付くことができる有効な手段である。

「認知症の気付き」を新たな認知症対策の一つとして位置付け、市医師会や学識経験者などの意見を聞きながら、認知症チェックリストを作成し、認知症高齢者の早期発見に努める。

▼問 「こころの体温計」が市のホームページに開設されたが、同様に「認知症チェックモード」も開設する考えは。

▽答 こころの体温計は、ホームページに開設した6月当初から多くのアク



「こころの体温計」にアクセス

セスがある。

今後、作成を予定している認知症チェックリストは、市役所や福祉センターなどの公共施設で配布するほか、こころの体温計と同様にホームページにも開設し、より多くの方に利用してもらえようようにしていく。

市民が健康に暮らせるまち

▼問 18歳から39歳までを対象とするヤング健診の受診状況と結果は。

▽答 6月から開始したヤング健診は、職場などで健診を受ける機会のない人を対象としており、2カ月間で246人が受診している。

健診の結果、保健指導が必要な人は全体の約37%、治療が必要な人は約9.3%だった。

▼問 ヤング健診は生活習慣病の早期予防を狙いとしているが、健診後の対応は。

▽答 健診をした医師から保健指導を行うとともに、必要に応じて精密検査を受けるよう指導している。

特に病気の重症化予防が必要な人には保健師が家庭訪問などを行い、保健指導を実施することとしている。

▼問 現在、30歳から5歳間隔で70歳まで歯周疾患検診を行っているが、対象を拡大する考えは。

▽答 生活習慣病を予防するにはバランスの取れた食生活が基本であり、それを支える土台が歯の

健康であると考えている。

ヤング健診の結果、生活習慣の改善が必要とされた人が多数いたこと、歯周疾患検診を受診された30代のうち、約8割の人が要指導・要精密検査と判定されたことなどから、さらに若い世代にも受診してもらう必要があると考え、平成27年度より対象年齢を20歳からに拡大し、ヤング歯科検診として実施する予定である。

また、75歳以上の後期高齢者への歯科健診については、後期高齢者医療広域連合と県歯科医師会において協議が進められている。

市役所本庁舎の耐震化

▼問 本庁舎の耐震化について、現在の取り組み状況は。

▽答 今年度、学識経験者や公募市民など12人で構成する「本庁舎耐震化

基本構想策定委員会」を設置し、平成25年度に実施した耐震診断結果や耐震補強計画案を基に、耐震化の方針について議論していただいている。

▼問 本庁舎の耐震化についての考え方は。

▽答 耐震化については、耐震方法や工事期間、概算事業費、ライフサイクルコストなどの比較とあわせ、市民サービスの視点からも比較検討を行っている。

今後、市民や議会からの意見、策定委員会の答申を踏まえ、耐震化の方向性を示す「本庁舎耐震化基本構想」を策定する。



本庁舎耐震化基本構想策定委員会

航空宇宙科学博物館のリニューアル

平成29年度に完了予定

▼問 航空宇宙科学博物館に対する市長の考えは。

▽答 平成24年には駐日フランス大使が来館し、昨年は入館者総数が300万人を達成した。

また今年は、展示機2機が重要航空遺産の認定を受けるなど、改めて当館の存在意義が問い直される時代を迎えたと考えている。

その中で、もう一度原点に立ち回り博物館の役目を考えた末、「子ども



重要航空遺産の認定を受けた機体

たちに、航空産業の発展とともに歩んできたふるさとの歴史への誇りと大空への夢をはぐくんでもらうこと」「航空宇宙文化を内外に発信すること」「県を代表する観光施設としての役目」を新たなコンセプトに加え、リニューアル事業をスタートした。

▼問 リニューアル基本構想の策定の進捗状況は。

▽答 今年度中に基本構想を策定、来年度中に実施設計を行い、平成29年度にかけてリニューアルの予定である。

なお、屋外遊具は先行して今年度中にリニューアルを行う。

▼問 未来の子どもたちはどう伝えていくのか。

▽答 企画事業や体験事業をさらに充実させるとともに、新たな教育プログラムも考えていきたい。

その上で、子どもたちが航空史や最新の航空宇宙技術を「見て・体験して・楽しんで・考える」ことができる施設、もっと「ワクワク」「ドキドキ」できる博物館にしていく。

介護福祉機器の開発支援

▼問 現在の介護ロボットや福祉機器への開発支援状況は。

▽答 従前より次世代産業への開発、ビジネスマッチング支援を行っている。

現在は市内の2企業が、機器の開発と導入実証を行っているっており、本年10月の国際福祉機器展へ出展するなど、開発、導入実証への支援を行っている。

▼問 今後の開発支援策は。

▽答 展示会出展事業や国などの補助金獲得支援を引き続き実施していく。

また、市内介護施設へ先端機器の開発状況などを提供するとともに、研究開発と実用化の一助と

なれるように、介護上の問題点などの情報を開発企業へ発信していく。

特色ある教育

▼問 各務原ものづくり見学事業の成果は。

▽答 市内企業20社の協力を得て、ものづくりを子どもたちに紹介した。

航空機産業など5つのコースを設定し募集したところ、定員40人を上回る応募があった。

本事業は子どもたち、企業から大変好評だったので、今後も継続したい。

▼問 ふるさとの歴史発見事業の参加者の反応は。

▽答 縄文文化体験ツアーには、22人の親子が参加し、炉灶遺跡公園の見学や埋蔵文化財調査センターでの土器復元の見学のほか、縄文土器の模様付けや勾玉作りなどを体験し、「縄文時代の生活にとっても興味が湧いた」などの感想があった。



蘇原第一小学校で行われた着衣水泳

また、小学生歴史教室には、5・6年生38人が、数億年前の地層観察と土器・石器を採集する講座、市内の戦争遺跡の見学と戦争体験を聞く講座に参加し、「想像以上の地層の大きさに驚いた」「これからも平和で戦争のない日本でありたい」などの感想があった。

▼問 着衣水泳について

▽答 今年度は、小学校4・5年生を中心に、6校で着衣水泳を行った。体験した児童から着衣水泳の有意義さが伺えたので、より多くの学校で実施できるよう努める。

浸水対策の取り組み

雨水幹線、校庭貯留浸透施設を整備

▼問 市内全域の排水路計画の内容と進捗状況は。

▽答 平成25年度末の整備状況は、全体計画面積の5149ヘクタール中1363ヘクタールについて事業許可を受け、雨水幹線や樋管改築、校庭貯留浸透施設の整備を進めており、整備率は64%となっている。

▼問 浸水対策の具体的な取り組みは。

▽答 浸水被害が多発している区域を優先して整備しており、鵜沼朝日町地内の大伊木雨水幹線や下切排水路、境川流域総合治水対策として、那加中学校、那加第一、那加第三、稲羽西小学校の校庭貯留浸透施設の整備を行った。

今後は、北山雨水幹線の整備や小網樋管の改築、蘇原第一小学校などで校庭貯留浸透施設の整備な

どを実施し、浸水被害の防止に努めていく。



校庭貯留（稲羽西小学校）

▼問 遊水地に新たに建築や舗装をする場合、浸水対策を施すなどの規制を行う考えは。

▽答 市街化調整区域の水田は、宅地化の制限もあり、一時的な遊水地として期待できるが、市街化区域の水田の建築規制は困難である。

小規模開発事業者には駐車場を透水性舗装にすることや緑化の実施、大

規模開発事業者には、それに加え調整池の設置を指導していく。

道路管理

▼問 歩道と車道の境界の段差解消の考えは。

▽答 歩車道の境界は、国の基準により、視覚障がいの方が境界を識別する手掛かりとして、2センチメートルの段差をつけることとなっている。

しかし、車いすやベビーカーなどの使用者からはその段差をなくしてほしいとの声も多くあったため、那加メインロードにおいては、2本のスロップ状の溝を設けて段差解消に配慮している。

▼問 街路樹管理の内容と実施状況は。

▽答 本市には約36キロメートルに及ぶ路線に約6000本の街路樹があり、従来は自然な形のままで、剪定も必要最小限にとどめていたため、倒

木の危険性や害虫、落葉など沿線の市民に負担を掛けていた。

昨年度より、定期的な透かし剪定や落葉前に剪定を行うなど、景観に配慮しつつ適切に手を加えることで、倒木や害虫発生への抑制に努めている。

ブランド推進

▼問 ふるさと納税啓発事業の状況は。

▽答 平成25年6月に事業の見直しを行い、平成24年度は4件79万円であった寄付金が、平成25年度は8188件1億2497万円になり、今年度は8月末現在で5544件8097万円と昨年を上回るペースとなっている。

推奨特産品や市内観光施設の入館券など、魅力的な各務原ブランドを発信しているが、市内事業者との連携をより強化しながら、さらなる各務原

ブランドの向上に努める。

▼問 地域CM制作ワークショップ事業の経緯と効果は。

▽答 7歳から78歳までの43人の市民が5班に分かれ、本市のCMを制作した。

最優秀作品は、一宮市内の映画館で、本編上映前のCMとして12月から1月にかけて上映される予定である。



最優秀作品に選ばれたCM



こんな街がいいな！

～わたしたちの夢、願い～

互いに励ましあえる街づくり



蘇原清住町
茨木 重成さん

昭和12年生まれの私が各務原市に移住して48年になります。

勤務時代は朝早くから夜遅くまで働き、71歳で退職。今までの経験を生かしお世話になった町内で何か恩返しをと思っていたところ、シニアクラブの会長に推薦され授受させていただき現在に至っております。

前会長からの引継ぎで、各種イベントには一人でも多く元気で、楽しんでの参加を目指しております。

以前は隣近所、班内を回るくらいでしたが、今は町内に多くの顔見知りができ、日ごろの触れ合いの大切さを勉強させていただいております。

互いに励まし合い体力維持、全員参加の、趣味を生かした文化活動面にも力を入れ、より楽しい街づくりに頑張ります。

安心して遊べる街に



那加昭南町
栗原 伸子さん

三輪車が大好きな元気いっぱい2歳の息子の母親です。

各務原市の子育て支援はとても充実しており、5つの子ども館をはじめ親子サロン、子育て広場やばあばの家・じいじの家などの利用で地域の皆さんに支えられながら、親子で交流の場を楽しませていただいております。

息子が外で活発に遊ぶようになってとともに、川や用水路、線路に道路などの危険な場所が目につくようになってきました。

もちろん親が教えていくことが大切ですが、環境整備や情報の共有化などで、子どもたちが安全に安心して遊べる街になってほしいと願います。

美しい楽しい所に人は集まる



上中屋町
尾関 純子さん

ガーデニング教室や、ガーデンセンターでの相談、各務原市が配布する花苗の講習会をさせていただいております。

各務原市役所前駅の花飾りボランティアもさせていただいておりますが、水やりなどの花の手入れをしていると、通られる方から「きれいね」「癒やされるね」という声をいただきます。

きれいだから、楽しいから続けられるのです。

花飾りは、自分も楽しめ、見た人も楽しめ、見た人からは褒められて喜びが数倍になります。

地域、家庭、事業所に花があふれ、各務原市全体が美しく活気のあふれる街となるよう願っています。

市議会を見にきませんか？

平成26年12月定例会の日程（予定）

12月 8日	本会議 開会
12月 16日・17日	本会議（質疑、代表・一般質問）
12月 19日・22日	常任委員会
12月 25日	本会議 閉会

※日程は議事の都合により変更になる場合があります。

スマートフォンでも視聴できます

本会議の録画映像が、6月定例会分からスマートフォンなどのタブレット端末でも、ご覧いただけるようになりました。



議会素描

▼9月議会は、昨年度の決算を主に審議。

新年度に思いをはせ、熱心な審議となり、実り多き秋となったのでは。

▼今議会は、議員に対する懲罰に問責の議決も。自由闊達な議論は議会の本分だが、議員の言動には、それに伴う責任があることを改めて痛感。

市議会だより編集委員会

委員長 水野盛俊
副委員長 坂澤博光
委員 五十川玲子

岩田紀正
仙石浅善
池戸一成



環境保護のため植物インキを使用しています。